2022 年 3 月館員おすすめの本

『エヴァの震える朝』（エヴァ・シュロス）

吉田　梨紗

エヴァは 15 歳の時にアウシュビッツ強制労働収容所に送られました。そこへ送られるとほとんどの人がガス室送りになります。その他の人々は満足な食事や休息も与えられず強制労働をさせられ、常に恐怖と飢えに苦しみ、肉体的・精神的苦痛は計り知れません。

収容所での生活は私たちが想像できないほど非人道的で希望も何もありません。しかしエヴァをはじめ人々はわずかな希望を見失わぬよう耐えていたのです。そんな中生き延びることができたのは、ぎりぎりのところで何度も運がつながったからだと著者は語ります。親戚が収容所内で看護師として働いていたこと（医療従事者は少し待遇がよかった）、収容所に送られた時期、ほとんど母親と一緒にいられたこと等が何とか運をつないでいたのです。人種差別や戦争は罪のない人々を苦しめ、終戦後もなお苦しみ続けていて終わりが見えず、絶対に繰り返してはいけないことだと強く思わされる一冊です。（朝日文庫）

『林檎の樹』（ゴールズワージー）

原　真由美

主人公のアシャーストは銀婚式の記念に、妻を伴いイギリス南部の荒野（ムーア）を訪れます。丘や谷の素晴らしい景色にふと見覚えがあると感じ、26年前の記憶が胸によみがえります。かつて林檎の花が咲き誇る春、友人と旅したこの地で純粋な少女ミーガンに出会い恋心を抱きます。本物の恋だと有頂天になり駆け落ちの約束をしますが、出かけた町で今度は別の美しい女性（現在の妻）に心を奪われ、二度とこの地には戻らなかったのです。魂が抜け殻のようになったミーガンの運命を村人から聞きアシャーストは苦悩します。身勝手さに憤りを感じますが、喜びや悲しみを包む野の花の咲き誇る湿原、月明かりの果樹園、ヒバリの歌声、レモンの香る風などイギリスの自然の描写が物語を魅力的にしています。また燻製のハム、シチュー、クリームティーなど美味しそうな食事も登場し楽しめます。（新潮文庫）

『JR 上野駅公園口』（柳美里）

大久保美玲

改札口を出ると緑が広がり、美しい風景の中をゆったりと散歩しながら目的地に向かうことができる上野公園。かつてはブルーシートでできたコヤが乱立するホームレスの寝床でした。公園内の施設へ天皇が行幸される際は、「山狩り」と呼ばれるホームレスの締め出しが行われました。台風が接近していようが、どんなに具合が悪かろうが、コヤをたたんで公園の外へ出なければなりません。平成天皇と同じ日に福島県相馬に生まれたカズさんもそんなホームレスのひとり。山狩りが応える 72 歳の身体に、追い打ちをかけるように 2011 年 3 月 11 日故郷が津波に襲われます。同じ生年月日の天皇とカズさんの対照的な人生に胸が締め付けられます。東北出身が多いという上野公園を追われたホームレスの方々の今を想わずにはいられません。（河出文庫）